

# 水分の峰 — みくまりのみね — 英彦山 高千穂宮司に聞く



鉞（まさかり）舞

氏子により舞われるこの舞は鎌倉時代（1300年頃）に作られ、山伏により春の入峰の修行成就の門出を祝う舞。静かな動きの中に力強さを併せ持ち、鉞を大きく振りかぶる様は鋭い心を表現している。



獅子舞

楽（音）もなく舞われるこの獅子舞は、通常の物に比べ、雌頭が約 20kg、雄頭が約 30kg と重く大きい。



神幸祭で奉幣殿からの急な階段を駆け下りる神輿

『天照大御神は太陽の化身と言われていますが、その御子であるアメノオシホミミ命をお祀りしているのが英彦山なんです。太陽は日、つまり日の子の山ということで、古くは日子山（ひこさん）、のちに彦山と改名され、さらに江戸時代には、尊いという意味の「英」の字を靈元法皇より賜って現在は、英彦山（ひこさん）と呼ばれるようになりました』と語るのは、第33代英彦山神宮宮司である高千穂秀敏氏（62歳）。

福岡・大分県境にそびえる英彦山は古い時代の火山で、山に降った雨は、四方に流れ、田畑に恵みを与えることから、水分の峰とも呼ばれ、農業信仰が厚い。その恵みの水が流れ下るよ  
うに、春の祭りである神幸祭は、田川地方では英彦山から始まり、里へと下っていく。  
『英彦山のお神様は農業ととても縁が深く、3月の御田祭（おんたさい）に続く神幸祭で五穀豊穡が祈願されます。神幸祭では、古くから伝わる獅子舞や独特の舞が奉納され、満開の桜と重厚な神輿との取り合わせは、きつとみなさまに満足していただけるものと思っています。今年も、ぜひ、英彦山の神幸に足を運んでください』と高千穂宮司は熱く語る。  
今年も水分の峰に春がやってくる。里とは違った一足遅れの桜と、歴史ある神幸をぜひ堪能してもらいたい。



第33代 英彦山神宮宮司 高千穂秀敏氏（62歳）。

英彦山神宮神幸祭：4月13日（土曜）・14日（日曜）

# 風治八幡宮川渡り神幸祭

筑豊に初夏の訪れを告げるのが、県指定無形民俗文化財 風治八幡宮川渡り神幸祭だ。「伊田の神幸」と呼ばれ親しまれているこのお祭りは、神輿を先頭に、山笠が彦山川を、水しぶきを上げながら勇壮に渡る場面が有名だが、神輿、山笠の巡幸路にはそれぞれの見せ場があり、川渡りだけではない、神幸祭も再発見してもらいたい。



神輿と山笠が勇壮に水しぶきを上げながら彦山川を渡る場面が有名



みこしをかつぐ会の有志たちにより担がれた神輿が、一番に川に入る



神幸祭前夜、ほのかに照らされた灯りのなかに浮かび上がる神輿は一見の価値あり

主な開催場所  
彦山川 (田川市魚町付近)

## 風治八幡宮川渡り神幸祭：5月18日（土曜）・19日（日曜）

後藤寺に鎮座する春日神社の神幸祭では、県指定無形民俗文化財の春日神社岩戸神楽が奉納される。神輿の巡幸路を清めるための稚児舞いや、神輿の進路を阻む鬼の格闘など、他の神幸祭では見られない特徴がある。また、田川後藤寺駅前広場には特設会場が設けられ、たくさんのお土産が振わっている。

### 春日神社神幸祭



街中でも岩戸神楽の場面を見ることが出来る  
神輿や山笠の巡幸路を清めるための稚児舞  
山笠の横を通り過ぎる華麗で威勢がよい女神輿



春日神社より下る神輿

主な開催場所  
田川後藤寺駅周辺

## 春日神社神幸祭：5月25日（土曜）・26日（日曜）

# 光明八幡神社神幸祭（赤村）

神社の創建は古く、清和天皇873年に御許山の山頂に光り輝く神霊が降臨し、村人たちが崇めた事に始まるといわれている。この山車は巨大で、大きな車輪を持つ。子どもによる「気遣取り」の所作は見ごたえ十分だ。



巨大な山車は四方から綱を張り、バランスを取りながら進む



優雅な装束に身を包んだ担ぎ手によって進む神輿



山車の上で、子どもによって行われる「気遣取り」の様子

光明八幡神社神幸祭：5月4日（土曜）・5日（日曜）

素朴な白木の神輿の屋根は、杉の葉で葺かれ、全国的にも非常に珍しい



ワッショイ、ワッショイ”ではなく、伊勢は津で持つ、津は伊勢で持つ”という優雅な歌詞が街に響き、神輿が進む



# 古宮八幡神社神幸祭（香春町）

奈良時代、香春岳で掘り出されていた銅で宇佐神宮の御神鏡を鑄造し、奉納していたという歴史がある神社である。

また、宇佐神宮を通じて奈良の大仏鑄造にも多大な貢献をしていたことは、学問的にも疑いのないことと言われ、古代史ファンには人気の高い古社である。古代より銅を産出していた香春三の岳の麓を行く神輿は優雅で、歴史の深さを感じさせてくれる。

古宮八幡神社神幸祭：4月27日（土曜）・28日（日曜）

# 正八幡神社神幸祭（川崎町）



田原獅子舞



無病息災を願って神輿の下をくぐる



杖楽 善衛（ぜんべえ）はじきの場面

春のこの時期、川崎町内各地で神幸祭が行われるが、1153年、源為朝が、田川郡勾金に移り、この付近の領主となった時、正八幡神社に杖、鎌の48手を奉納し、源氏の興隆と武運長久を祈ったのが、杖楽の始まりとされている。真剣を用いた勇壮な舞が見もの。

写真提供／川崎町教育委員会

主な開催場所

川崎町田原 882 番地

正八幡神社神幸祭：5月3日（金曜）・4日（土曜）



写真提供／岩屋神社

## 伊方山笠競演会

5月3日（金・祝日）18:00～  
赤坂・白鬚神社神幸祭参加の山笠が一堂に会する前夜祭



# 伊方山笠（福智町）

「福智町伊方地区は、5月3日より祭り一色に染まる。3日夜、電飾された山笠が見られる「競演会」に続き、4日から5日にかけては、白装束に身を包んだ男衆に担がれた神輿と、山笠が町を練り歩く。見どころは、赤坂神社に戻る神輿を阻む山笠との競演。

主な開催場所

福智町公民館方城分館前広場  
（福智町伊方 4480-1）

伊方山笠：5月3日（金曜、祝）～5日（日曜・祝）



300年以上続く伝統行事。各地区が高さ最大で9メートル・重さ2トン以上の飾り山笠を担ぎ、町内を練り歩く



「いとよき田」が語源といわれる糸田町では、町中各地で五穀豊穡を祈願する山笠が見られ3万人近い観光客が集まる。田んぼの中を進む山笠は、美しく、また勇壮である。糸田町では、3月、農業にかかわり深い町指定文化財の「田植祭」も行われている。

主な開催場所

フェスティバルパーク糸田  
（糸田町2404番地）

糸田祇園山笠：5月11日（土曜）・12日（日曜）

# 糸田祇園山笠（糸田町）